



第74期

# 中間報告書

自 平成18年4月1日  
至 平成18年9月30日



NEWS  
ZERO

はじめまして、日テレの新しい顔です

## CONTENTS 目次

株主の皆様へ



日テレ  
TOPICS



社長  
インタビュー



事業報告



営業の概況



連結財務諸表



単独財務諸表



会社情報



TO OUR SHAREHOLDERS

## 株主の皆様へ



株主の皆様には、ますますご清祥のこととおよこび申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

日本経済は、国内の民間需要に支えられた景気回復基調が続いて  
おりますが、テレビ広告費は、広告手法の多様化の影響等から伸び  
悩み、厳しい状況となりました。こうした中で当社は、本年5月に  
発表した中期経営計画でご報告したとおり、特に放送外収入の  
大幅な拡大を目指す等、「総合メディア産業の雄」としてこの大  
競争時代を勝ち抜く所存であります。

配当につきましては、当社は配当性向を重視した業績連動型の  
配当政策を導入しており、目標配当性向を33%としております。  
また、当期からは1株当たり年間配当金の下限を100円から150  
円に増額し、当期の中間配当は1株当たり75円（前年比25円増）  
とさせていただくことといたしました。

今後共一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年12月

日本テレビ放送網株式会社

代表取締役 取締役会議長 氏家 齊一郎（写真左）  
代表取締役 社長執行役員 久保 伸太郎（写真右）

## 52年ぶりの新番組、スタート!

日本テレビではこの10  
月から夜のニュース番  
組「きょうの出来事」を  
52年ぶりに改編し、新  
番組「NEWS ZERO」  
をスタート。

日本テレビの新たな顔  
となるような番組にすべ  
く全力をあげています。



「NEWS ZERO」のメインキャスター村尾信尚  
(左)とキャスター小林麻央(右)

NEWS ZERO 月~木 22:54~23:55  
金 23:30~24:25

## 新キャンペーン「日テレちん」 をよろしく!

2004年から始まった「&日テレ」  
キャンペーンがこの秋ついに変わ  
りました。新キャンペーンはその  
名も「日テレちん」。  
視聴者に愛され続けてきた日テレ  
が、より日テレらしくあるために…。  
いよいよ「日テレちん」がスタート  
します。





## 24HOUR TELEVISION

# 1

## KAT-TUNを迎えて「24時間テレビ」大成功

### 24時間テレビ29 「愛は地球を救う」

8月26、27日に行われた「24時間テレビ29」は、「絆」をテーマに全平均17.7%という歴代2位の視聴率を上げました。チャリティー・パーソナリティに絶大な人気を誇るKAT-TUNを迎え、また恒例のマラソンにはアンガールズが挑戦して感動のうちに終了しました。またチャリティー募金も9億4068万2462円(9月30日現在)に達しています。



亀梨和也主演のドラマ「ユウキ」も22.7%と高視聴率を獲得。また「第2日本テレビ」のマラソン中継等、HP・データ放送・携帯サイトなどデジタルコンテンツを総動員した「24時間テレビ」でした。

# マイ☆ボス マイ☆ヒーロー

## 2

### 多くの世代の共感を集めた青春コメディ

#### ドラマ 「マイ☆ボス マイ☆ヒーロー」

7月～9月放送の「マイボス・マイヒーロー」は平均視聴率19.1%とクールトップの成功をおさめ、土曜9時のドラマ枠「土9」としてのブランドをさらに強固なものにしました。主演はTOKIOの長瀬智也で、次代組長を目指す27歳の青年が「17歳」と偽って高校に編入することから始まる青春コメディとして、多くの世代の共感を集めました。



このドラマの原案は韓国映画「頭師父一體」。主題歌は中島みゆき作詞・作曲「宙船（そらふね）」をTOKIOが歌い、KAT-TUNの田中聖、NEWSの手越祐也が共演したことも話題になりました。



© 2006 二馬力・GNDHDDT

# 3

## 今年の日本映画最高の興行収入を記録

### 映画 「ゲド戦記」

スタジオジブリ20年越しの企画として話題を呼んだ劇場映画「ゲド戦記」は、今年7月に公開されるや、全国で大ヒット!今年公開の日本映画で最高の興行収入(10月末現在で約76億円)を記録しました。監督を務めたのは、宮崎駿監督の長男・宮崎吾朗氏。新人ながら見事に作品を仕上げたその才能は、ベネチア国際映画祭でも大勢の観客から熱狂的な喝采を浴びました。



© 2006 二馬力・GNDHDDT

特別招待作品として上映された第53回ベネチア国際映画祭で、会場を埋め尽くした観客の拍手に笑顔で応える宮崎吾朗監督(写真左)。

## 社長インタビュー

あらゆる伝送路で、映像メディア文化の最大最良の担い手であり続けるために私たちは、「2008年度総合優勝」を目指します。

代表取締役 社長執行役員 久保 伸太郎



当社は、今年5月に2006年度～2008年度の中期経営計画を策定いたしました。

その計画の進展状況や今後の展開について、代表取締役社長執行役員久保伸太郎よりご報告いたします。

**ドラマが高視聴率を獲得、質的にも高い評価  
日本テレビの発明品と言われる番組の開発を推進**

**Q：放送収入についての展望はいかがですか？**

視聴率トップの座を取り戻すために、昨年の4月からレギュラー番組の大幅な改善に取り組んでまいりましたが、その成果は着実に現われつつあります。

特にドラマ部門では、「マイボス・マイヒーロー」が同時期の民放連続ドラマで最高の視聴率を獲得いたしました。さらに「火垂るの墓」が日本放送文化大賞の準グランプリに、「女王の教室」が日本民間放送連盟賞テレビドラマ部門優秀賞に輝くなど、質的にも非常に高い評価を受け、視聴者の皆様にもご満足をいただいております。

また、この10月には、52年続いた民放の最長寿番組である「きょうの出来事」を終了して、新たなニュース情報番組「NEWS ZERO」を立ち上げるなど、積極的な改編に努めています。今後も、他局にはない日本テレビの発明品といわれる番組の開発に力を入れてまいります。

**好調な映画事業に積極的な投資を  
DVD販売・通販事業も収益拡大に貢献**

**Q：特に放送外収入については  
大幅増を目指していますが？**

劇場映画「ゲド戦記」は、今年公開の邦画では最高の興行収入（10月末現在で約76億円）をあげ、「DEATH NOTE（前編）」は、前後編公開という日本映画初の試みが大成功して、国内で大いに話題を呼ぶ一方、香港をはじめとするアジア各地で、日本映画の興行記録を塗り替えました。

好調な映画事業については、今後も積極的な投資を行いますが、DVDなどのパッケージビジネスにも力を入れており、昨年公開した「ALWAYS 三丁目の夕日」のDVDは40万枚をこえる大ヒットになりました。

このほか、通販事業においてはその成長性にも着目し、地上放送をはじめあらゆる伝送路を駆使して、大きく育てる方針で、すでに今年は昨年比2倍以上の売上げとなり、収益拡大に貢献しております。

また、編成局にマルチユース戦略部を設置して、さらに番組との連動強化を図っています。アニメ「NANA」の海外番販やDVD販売はその一例です。

当社は、放送外収入の拡大に力を入れることによって、

## □ 中期経営目標

# 2008年度総合優勝 = 4つのNo.1



放送収入が8割を占めていた事業ポートフォリオの改善を目指すことを中期経営計画の大きな柱としております。

### ワンセグサービスと「第2日本テレビ」を柱に マルチコンタクトポイント戦略の展開

#### Q：デジタル化時代のメディア戦略については？

デジタル化社会では、視聴者の皆様が自ら参加するSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)のような新しい媒体を含め、多様な映像媒体への接触機会(コンタクトポイント)が急速に広がります。

当社は、このチャンスを一いち早く捉え、最大の企業価値であるコンテンツ制作力を発揮し、いつでもどこでも、日本テレビのコンテンツに触れていただくマルチコンタクトポイント戦略を展開しております。

この戦略の大きな柱を担うのがワンセグサービスと、インターネット向け映像配信事業「第2日本テレビ」です。

ワンセグ放送は、サービス開始から僅か5カ月で対応携帯電話が200万台出荷されるなどスピード感のある普及が期待されており、単に番組への接触機会を増やすだけでなく、放送・通信の連携により、視聴者の皆様へ新たな付加価値を提供することが可能となります。

当社は番組だけでなく、通信コンテンツや、コマース事

業展開も積極的に推進しております。

また、昨年10月に立ち上げた「第2日本テレビ」では、インターネットを通じてのニュースやオリジナルコンテンツの視聴が着実に伸びており、VOD(ビデオ・オン・デマンド)サイトならではの動画投稿サービスも開始いたしました。

#### Q：最後に株主の皆様へ

当社は、あらゆる伝送路で映像メディア文化の最大最良の担い手であり続けるため、最大の強みであるコンテンツ制作力を中心とした経営資源の最適配分を図り、必要な投資を積極的に行うことによって、開局55周年を迎える2008年度に、「放送収入No.1」、「放送外収入で伸び率No.1」、「コンテンツ流通で売上No.1」、「顧客満足度でNo.1」の「総合優勝」を目指します。

株主の皆様にも、より一層のご支援・ご指導を賜りますよう、よろしくお願いたします。

(平成18年11月10日)

※なお、中期経営計画の「プレスリリース」および決算説明会における配布資料などは、当社HPに掲載しております。  
下記URLをご参照下さい。

<http://www.ntv.co.jp/ir/index.html>

# 事業報告

## □ 番組

### お茶の間に笑いをお届けすること 40年、「笑点」は新たな展開へ

毎週日曜夕方5時半。

お馴染みのメロディーで始まる「笑点」は、今年めでたく放送40周年を迎えました。

時代の風を感じる旬なネタと笑いで、老若男女問わず楽しめる番組を作り続けています。

5月からは、5代目司会者として、放送第1回目からの出演者である桂歌丸師が三遊亭円楽師からバトンを引き継ぎました。時代とともに成長していく「笑点」をこれからもご声援下さい。



### 土曜夜が若年層に絶大な人気！ 報道特番が大きな反響を呼ぶ

平成18年度上期の番組視聴率は、レギュラー長寿番組の疲労、ナイター中継の不振などの影響により、全日（6～24時）2位、プライム（19～23時）4位、ゴールデン（19～22時）3位の結果となりました。

ドラマ番組では、土曜夜9時放送の「ギャルサー」「マイボス・マイヒーロー」が話題を呼び、続く10時の「エンタの神様」とともに若年層から絶大な人気を博し、流行の発信番組として確固たる地位を築いています。

また、日曜夜9時の「行列のできる法律相談所」は、平均視聴率17.8%と看板番組としての人気を維持しています。



「行列のできる法律相談所」



特別番組「特命記者～激撮スペシャル～」

報道番組では、4月から夕方の「ニュースプラス1」を18年ぶりにリニューアル、放送枠も拡大し、「生の情報」にこだわる「NEWS リアルタイム」をスタート、着実に視聴者の強い支持を増やしています。

また報道では、プライム帯での特番にも力を入れており、7月には振り込め詐欺集団を追跡取材した「特命記者～激撮スペシャル～」を放送。15.0%という高視聴率を獲得し、大きな反響を呼びました。



## □ コンテンツ事業

### フランスのTF1で「仮装大賞」が 放映され、視聴率1位を獲得

7月26日、フランス最大の民放局TF1で、仏版「仮装大賞」が放送され、占拠率34.7%の高視聴率をマーク、この時間帯の堂々1位を獲得しました。現地のマスコミで大きく取り上げられて注目を集め、他の国々からもオファーが寄せられています。

日本テレビでは番組制作のノウハウをまとめた情報を提供し、番組スタッフが現地で監修にあたりました。このように、当社は海外への番組フォーマット（番組制作のノウハウ・アイデアなど）販売により、収入を着実に伸ばしています。



© TF1



### 好調な映画事業・DVD販売！ 放送外収入拡大に大きく貢献

映画事業では、「ゲド戦記」「DEATH NOTE（前編）」等の興行や、昨年公開した「ALWAYS 三丁目の夕日」等のDVD販売が好調で、業績に大きく貢献しました。

通販事業では、番組と連携して「オリジナルバッグ」を開発するなど、自社コンテンツと商品を創造的に融合させたことが成功の要因となり、昨年比2倍以上の売上げを記録しました。

ライセンス事業では、「それいけ!アンパンマン」を中心とした商品化が引き続き好調で、また海外番組販売部門はアニメ・ドラマなどを積極的に販売し、昨年比2倍近い売上げを確保することができました。



映画「DEATH NOTE（前編）」  
© 2006「DEATH NOTE」FILM PARTNERS  
© 大場つぐみ・小畑健/集英社



「それいけ!アンパンマン」  
© やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

出版事業では、月刊誌「3分クッキング」、ムック「おもいきりテレビ」が堅実に販売実績を上げています。

コンテンツファンド事業では、NTTドコモとの共同出資により、有限責任事業組合D.N.ドリームパートナーズを設立しました。アニメ「DEATH NOTE」などテレビ番組4シリーズに投資し積極的に事業を展開しています。

## □ イベント事業・メディア事業

### ■ 「ルーヴル美術館展」27万人が入場 美術展

東京藝術大学大学美術館で開催した「ルーヴル美術館展」東京展（6月17日～8月20日）は、門外不出と言われていたルーヴルのギリシア部門の彫刻を中心に構成され、27万人の入場者数を記録しました。

また、東京都現代美術館で開催した「ディズニー・アート展」（7月15日～9月24日）は、18万人という同館歴代第3位に当る入場者数を記録しました。



© Disney

### ■ 「日テレメニュー」が 「グッドデザイン賞」を受賞

#### ワンセグ放送

ワンセグ向けコンテンツ「日テレメニュー」が「2006年度グッドデザイン賞」（Gマーク）を受賞しました。

この4月からサービスが開始されたワンセグ放送は、戸外で、移動しながら全く新しい視聴形態を視聴者に提供し、地上放送に新たな魅力を加えるものとなりました。

当社は、ワンセグ事業にも独自のアイデアを活かしつつ、積極的に取り組んでいます。



### ■ 視聴可能世帯 2000万の大台へ

#### BSデジタル放送

当社グループのBS日テレは、9月29日に東西の画家を追った特番「山口智子の旅 北斎とドガ」を放送し、大きな反響を呼びました。

地上・BS・CS三波共用受信機の売れ行きが好調で、BSデジタル放送は視聴可能世帯が年度内に2000万の大台に乗ることが確実に視されています。競争激化を前に、当社はBS日テレとの連携強化に努めています。



「山口智子の旅 北斎とドガ」  
© BS日テレ

### ■ 「Zassa (ザッサー)」の有料配信が好調 第2日本テレビ [www.dai2ntv.jp](http://www.dai2ntv.jp)



松本人志オリジナルコント  
「Zassa (ザッサー)」  
第2日本テレビにて好評配信中!

「第2日本テレビ」では、松本人志によるオリジナルコント「Zassa (ザッサー)」の有料配信が好調な視聴数を記録し、登録会員数も日々伸びています。

その他にも、半世紀を越えて地上放送で培ってきた番組制作のノウハウを活かしつつ、「インターネット」というメディアを通じて、全国版ニュースの放送直後の配信や「24時間テレビ」と連動したマラソンの動画配信など、さまざまな形のチャレンジを行っています。

## 営業の概況

当中間連結会計期間における日本経済は、好調な企業収益を背景にした設備投資の増加、雇用情勢の改善に伴う個人消費の増加等により、景気の回復基調の中で推移しました。

こうした経済環境の中で、当社グループの連結売上高は1,658億7千万円で、前年同期比96億4千万円(△5.5%)の減収となりました。

セグメント別にみると、テレビ放送事業の売上高は、1,316億3百万円、前年同期比73億8千万円(△5.3%)の減収となりました。タイムセールスは、大型単発番組(サッカーワールドカップ)がありました。レギュラー番組等のセールスが振るわなかったこと等により、前年同期比22億8千9百万円(△3.3%)の減収となりました。スポットセールスは、地区投下が前年同期実績を下回るなど、市場環境が厳しくなったこと等により、同40億8千6百万円(△7.1%)減収となりました。

文化事業の売上高は、308億9千3百万円、前年同

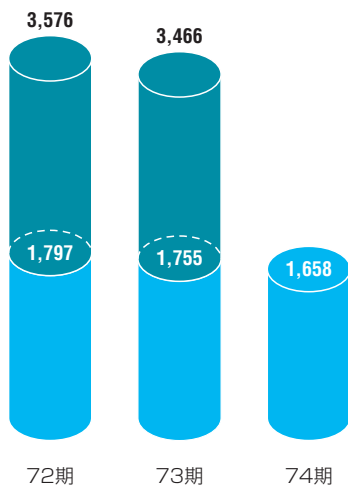
期比24億3千2百万円(△7.3%)の減収となりました。これは、この夏相次いで公開された映画「DEATH NOTE(前編)」と「ゲド戦記」のヒットや、通販事業の売上が急進した一方、前年同期のCD・DVD販売が非常に好調であったことによるものです。

その他事業についてはテナント収入がほぼ前年同期並に推移し、売上高は77億8千1百万円となりました。

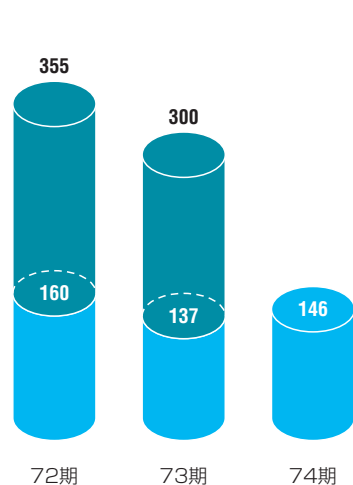
営業利益は、費用全般の削減に努めましたが、124億7千2百万円となり、前年同期比7億2千5百万円(△5.5%)の減益となりました。

一方、経常利益は投資事業組合運用益の増加、持分法による投資損益の改善等による営業外収支の好転を受け、146億2千8百万円となり、同8億8千6百万円(6.5%)の増益に転じました。さらに、中間純利益は、前連結会計年度において投資有価証券評価損を計上した反動もあり、77億7千万円、同33億7千7百万円(76.9%)の大幅な増益となりました。

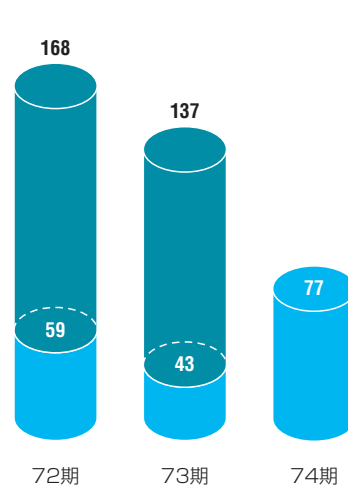
■ 連結売上高 (億円)



■ 連結経常利益 (億円)



■ 連結当期純利益 (億円)



通期



中間期

# 連結財務諸表

## ■ 中間連結貸借対照表

単位：百万円

科目	期別	
	当中間期末 平成18年9月30日現在	前 期 末 平成18年3月31日現在
<b>【資産の部】</b>		
流動資産	178,650	170,305
固定資産	332,531	349,646
有形固定資産	201,210	206,134
無形固定資産	4,321	4,675
投資その他の資産	127,000	138,836
資産合計	511,182	519,951
<b>【負債の部】</b>		
流動負債	76,588	74,060
固定負債	33,754	40,902
負債合計	110,342	114,962
【少数株主持分】少数株主持分	—	6,971
<b>【資本の部】</b>		
資本金	—	18,575
資本剰余金	—	17,928
利益剰余金	—	350,025
その他有価証券評価差額金	—	21,084
為替換算調整勘定	—	△ 56
自己株式	—	△ 9,540
資本合計	—	398,017
負債、少数株主持分及び資本合計	—	519,951
<b>【純資産の部】</b>		
株主資本	381,797	—
評価・換算差額等	11,051	—
少数株主持分	7,989	—
純資産合計	400,839	—
負債純資産合計	511,182	—

## ■ 中間連結損益計算書

単位：百万円

科目	期別	
	当中間期 自平成18年4月 1日 至平成18年9月30日	前中間期 自平成17年4月 1日 至平成17年9月30日
売上高	165,870	175,510
売上原価	117,044	124,504
売上総利益	48,826	51,005
販売費及び一般管理費	36,353	37,807
営業利益	12,472	13,198
営業外収益	2,226	1,043
営業外費用	71	500
経常利益	14,628	13,742
特別利益	143	689
特別損失	508	5,568
税金等調整前中間純利益	14,263	8,862
法人税、住民税及び事業税	5,268	4,959
法人税等調整額	576	△ 1,287
少数株主利益（控除）	647	797
中間純利益	7,770	4,393

**中間連結剰余金計算書**

単位：百万円

科目	期別	当中間期	前中間期
		自平成18年4月1日 至平成18年9月30日	自平成17年4月1日 至平成17年9月30日
(資本剰余金の部)			
資本剰余金期首残高		—	17,928
資本剰余金中間期末残高		—	17,928
(利益剰余金の部)			
利益剰余金期首残高		—	330,170
利益剰余金増加高			
中間純利益		—	4,393
利益剰余金減少高			
配当金		—	3,493
役員賞与		—	100
利益剰余金中間期末残高		—	330,970

**中間連結キャッシュ・フロー計算書**

単位：百万円

科目	期別	当中間期	前中間期
		自平成18年4月1日 至平成18年9月30日	自平成17年4月1日 至平成17年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー		19,075	14,153
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 6,410	△ 10,151
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 2,339	△ 13,776
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 19	46
現金及び現金同等物の増減額		10,306	△ 9,727
現金及び現金同等物の期首残高		59,368	66,877
現金及び現金同等物の中間期末残高		69,674	57,149

**中間連結株主資本等変動計算書**

当中間連結会計期間 (自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)

単位：百万円

	株主資本					評価・換算 差額等	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計			
平成18年3月31日残高	18,575	17,928	350,025	△ 9,540	376,989	21,028	6,971	404,989
中間連結会計期間中の変動額								
利益処分による剰余金の配当			△ 2,869		△ 2,869			△ 2,869
利益処分による役員賞与			△ 90		△ 90			△ 90
中間純利益			7,770		7,770			7,770
自己株式の取得				△ 2	△ 2			△ 2
株主資本以外の項目の当中間連結会計期間中の変動額(純額)						△ 9,976	1,017	△ 8,958
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	4,811	△ 2	4,808	△ 9,976	1,017	△ 4,149
平成18年9月30日残高	18,575	17,928	354,836	△ 9,542	381,797	11,051	7,989	400,839

# 単独財務諸表

## □ 中間貸借対照表

単位：百万円

科目	期別	当中間期末	前 期 末
		平成18年9月30日現在	平成18年3月31日現在
【資産の部】			
流動資産		136,046	130,690
固定資産		311,231	329,177
有形固定資産		198,362	202,884
無形固定資産		3,598	4,000
投資その他の資産		109,270	122,292
資産合計		447,277	459,867
【負債の部】			
流動負債		72,333	71,031
固定負債		30,191	37,299
負債合計		102,524	108,331
【資本の部】			
資本金		—	18,575
資本剰余金		—	17,928
利益剰余金		—	303,634
その他有価証券評価差額金		—	20,937
自己株式		—	△9,540
資本合計		—	351,536
負債及び資本合計		—	459,867
【純資産の部】			
株主資本		333,487	—
評価・換算差額等		11,265	—
純資産合計		344,752	—
負債純資産合計		447,277	—

## □ 中間損益計算書

単位：百万円

科目	期別	当中間期	前中間期
		自平成18年4月1日 至平成18年9月30日	自平成17年4月1日 至平成17年9月30日
営業収益		141,145	144,194
営業費用		133,198	135,495
営業利益		7,947	8,699
営業外収益		2,099	1,162
営業外費用		43	235
経常利益		10,003	9,626
特別利益		143	690
特別損失		427	8,123
税引前中間純利益		9,719	2,193
法人税、住民税及び事業税		3,334	3,061
法人税等調整額		533	△2,205
中間純利益		5,851	1,338
前期繰越利益		—	3,934
中間未処分利益		—	5,272

## □ 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間（自平成18年4月1日 至平成18年9月30日）

単位：百万円

	株主資本					評価・換算 差額等	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計		
平成18年3月31日残高	18,575	17,928	303,634	△9,540	330,598	20,937	351,536
中間会計期間中の変動額							
利益処分による剰余金の配当			△2,869		△2,869		△2,869
利益処分による役員賞与			△90		△90		△90
中間純利益			5,851		5,851		5,851
自己株式の取得				△2	△2		△2
株主資本以外の項目の当中間会計期間中の変動額（純額）						△9,672	△9,672
中間会計期間中の変動額合計	—	—	2,891	△2	2,889	△9,672	△6,783
平成18年9月30日残高	18,575	17,928	306,526	△9,542	333,487	11,265	344,752

# 会社情報 (平成18年9月30日現在)

## □ 会社の現況

商号 日本テレビ放送網株式会社  
 設立 1952(昭和27)年10月28日  
 資本金 185億7,599万7,144円  
 主な事業内容 放送法による一般放送事業、  
 及びその他放送事業  
 放送番組の企画、製作及び販売  
 文化事業その他放送に関連する  
 一切の事業  
 主な営業所 本社 東京都港区  
 関西支社 大阪市北区  
 名古屋支局 名古屋市中区

## □ 株式の状況

発行可能株式総数 100,000,000株  
 発行済株式総数 25,364,548株  
 当期末株主数 53,480名  
 大株主

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
1 株式会社読売新聞グループ本社	3,764	16.1
2 読売テレビ放送株式会社	1,574	6.7
3 株式会社読売新聞東京本社	1,353	5.7
4 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,131	4.8
5 学校法人帝京大学	897	3.8
6 名古屋テレビ放送株式会社	566	2.4
7 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	561	2.4
8 株式会社よみうりランド	523	2.2
9 モルガンスタンレー・アンド・カンパニー・インターナショナルリミテッド	486	2.0
10 ステートストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニー・505025	448	1.9

## □ 取締役・監査役及び執行役員

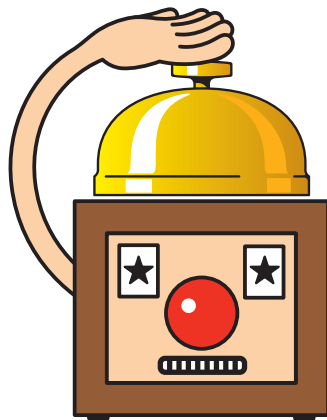
代表取締役 社長執行役員 久保 伸太郎  
 取締役 副社長執行役員 細川 知正  
 取締役 常務執行役員 舩方 勝宏  
 取締役 執行役員 山根 義紘  
 取締役 執行役員 島田 洋一  
 取締役 執行役員 黒崎 忠男  
 取締役 執行役員 酒井 武  
 上席執行役員 平林 邦介  
 上席執行役員 松本 正文  
 上席執行役員 平井 文宏  
 上席執行役員 三浦 元姫  
 執行役員 能勢 博弘  
 執行役員 室川 康久  
 執行役員 田村 信一  
 執行役員 田畑 孜

代表取締役 取締役会議長 氏家 齊一郎  
 代表取締役 相談役 間部 耕莘  
 取締役 正力 亨  
 取締役 渡邊 恒雄  
 取締役 平岩 四夫  
 取締役 山口 信宏  
 取締役 前田 文二  
 取締役 赤尾 嘉文  
 取締役 堤 清二  
 常勤監査役 横江川 欣也  
 監査役 瀬島 龍三  
 監査役 土井 共成  
 監査役 水 上 健也



「明日の神話」の修復・展示が話題を呼び、200万人以上が来場

夏の恒例イベント「GO!SHIODOMEジャンボリー」では、岡本太郎の「明日の神話」の修復・展示で200万人をこえるお客様が来場されました。



## 株主メモ

- **事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
- **定時株主総会** 毎年6月
- **剰余金の配当** 毎年3月31日の最終の株主名簿（実質株主名簿を含む）に記載または記録された株主または登録株式質権者にお支払いいたします。
- **中間配当** 取締役会の決議により、中間配当を実施する場合は、毎年9月30日の最終の株主名簿（実質株主名簿を含む）に記載または記録された株主または登録株式質権者にお支払いいたします。
- **外国人等の株主名簿への記載または記録の制限**  
放送法第52条の8第1項及び第2項に関連して、当社の定款には次の規定があります。  
第12条（外国人等の株主名簿への記載または記録の制限）  
当社は、次の各号に掲げる者（以下、「外国人等」という。）から、その氏名及び住所を株主名簿に記載または記録することの請求を受けた場合において、その請求に応ずることにより、第1号から第3号までに掲げる者により直接に占められる議決権の割合とこれらの者により第4号に掲げる者を通じて間接に占められる議決権の割合として総務省令で定める割合とを合計した割合が、当社の議決権の5分の1以上を占めることとなるときは、放送法の規定に従い、外国人等の氏名及び住所を株主名簿（実質株主名簿を含む。）に記載または記録することを拒むことができる。
  1. 日本の国籍を有しない人
  2. 外国政府またはその代表者
  3. 外国の法人または団体
  4. 前3号に掲げる者により直接に占められる議決権の割合が総務省令で定める割合以上である法人または団体
- **株式の名義書換**
  - **株主名簿管理人** 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社
  - **同事務取扱場所** 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社 本店
  - **同事務取扱所** 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-78-2031（フリーダイヤル）
  - **同取次所** 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店  
日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
- **単元株式数** 10株
- **公告の方法** 読売新聞に掲載する。



日本テレビ放送網株式会社

〒105-7444 東京都港区東新橋一丁目6番1号

<http://www.ntv.co.jp>